

2004年3月14日
NPO法人 白山の自然を考える会

2004（平成16）年度 活動方針（案）

1. 昨年度の活動を振り返って

私たちは昨年の総会時に石野理事長を新たに迎え、さらに事務局長も交代し、心新たにこの1年間の活動を行ってきました。

昨年度の活動を振り返りますと、会は5月以降国土交通省による光ファイバーケーブル敷設問題に翻弄されてきたということが言えます。当会としては、光ファイバーの必要性について当初より疑念を抱き、基本的に反対の姿勢を貫いてきましたが、その一方で現実的な対応もしなければならず苦慮してきました。数回にわたる国交省との協議および現地調査を通して、工法等の提言を行いました。あわせて、工事に伴う自然破壊は極力抑えるよう努めることを約束させました。また、カメラやGPS等の人工物は必要最小限にし、周囲との景観に配慮するよう要望しました。工事後の当会の調査では、これらはおおむね遵守されていたようには思いますが、工事終了時期を守らないなどの問題点もあります。今年は、黒ボコ岩から室堂までの工事がメインとなりますが、国交省とは随時交渉し、後世に禍根を残すようなことのないよう監視を続けていきたいと思っております。

さらに、昨年度の活動の中で重要なことは、石川県からの委託を受け、チブリ尾根登山道の維持管理作業に石川県勤労者山岳連盟と共同で取り組んだことにあります。チブリ尾根登山道は、白山の数ある登山道の中でも当会がもっとも愛着を持っている登山道であり、労山と共同で維持管理作業が出来たことはうれしいことであり、当会のこれまでの地道な活動が社会的に認められたものであると思っております。ただし、5月から10月まで月1回のペースで活動を続けていく中で、また県との話し合いの中で、登山道はどのようにあるべきなのかという問題に直面してきました。刈り方や刈り幅の問題など事前に検討しなければなりませんし、今年はさらに多くの会員に参加をしていただくための方途を探っていきたく思っています。

2. 今年度の活動について

①白山トンネル問題について

昨年7月国交省（東京）を訪れ、担当課の係長に建設反対の要望書を手渡した際、地元の反対の盛り上がり次第では、建設しないという選択肢もあり得るという返答をいただきました。今までの返答よりも一歩踏み込んだものであると思っております。そこで、今春より団体署名を集めることと致します。現在署名リストを集めている最中ですが、地元の小松・加賀市内の諸団体を中心にして、石川県内はもとより隣県の富山・岐阜・福

井の各県からも集めたいと思っています。その後、反対署名は東京の国土交通省へ持参し、大臣宛要望書とともに提出したいと思っています。不要な公共事業は行わないという社会情勢を追い風にして、この問題は早急に決着を図りたいと考えています。

②光ファイバー敷設の問題について

今年の工事予定区間は、黒ボコ岩から室堂までとなっています。国交省金沢河川国道事務所とは、随時協議を行いながら、工事の監視を続けていきます。工事の調査報告については、会報やホームページ等でお知らせいたします。

③チブリ尾根、登山道維持管理作業について

今年は2年目の取り組みとなります。5月から10月まで、月1回ずつの割で巡検や草刈りが予定されています。昨年度の反省も踏まえ、事前に刈り幅や刈り方について意思統一をしておきたいと思っています。その上で、7月の草刈りにおいては、広く会員からも参加者を募り、行事のひとつとして行っていきたくと考えています。あわせて、今年も石川県勤労者山岳連盟と事前に充分打ち合わせを行い、共同作業としていきたくと思っています。

④白山山系における避難小屋の問題について

白山山系には多くの登山道が放射線状に延び、それに伴って多くの避難小屋があります。そこで、老朽化した避難小屋の建て替えや新設といった問題が常に起こってきていますが、注意と関心を向けていきたくと思っています。特に避難小屋の新設については、基本的には認めないという立場でのぞんでいきたくと思っています。

⑤砂防堰堤への取り組みについて

これまで、当会の運営会議においてたびたび砂防堰堤をそのまま放置しておいていいのか、という意見が出されてきました。そこで、まず担当者を配置し、砂防堰堤の必要性等について勉強することから始めていきたくと思っています。

⑥笈ヶ岳登山道の問題について

笈ヶ岳は、北部白山の重要な山域であり、白山山系の中でも手つかずの自然が残されています。ところが、近年無雪期に多くの登山者が入山している状況です。そこで、当会として自然保護のために周辺の林道等の調査に着手していきたくと思っています。

⑦「白山市」の誕生を来年に控えて

白山のお膝元である鶴来町および白山麓5村は松任市及び美川町とともに来年2月いよいよ「白山市」として大合併されます。私たちは、このことに無関心であってはならないと考えています。白山麓に住んでいる人々が長い年月をかけて作り上げ守ってきた歴史や文化、伝統といったものが合併後も守られていかななくてはならないと思います。白山麓の住民もそのことに非常に不安な思いを抱いているようです。そこで「白山市」誕生後すみやかに地域振興課及び自然保護課と意見交換を行うべく、今年はその準備期間とし、当会として白山麓住民の側にたった白山麓の地域振興策及び白山の将来像についての意見をまとめ、「提言」を作成したいと思っています。

⑧世界自然遺産登録運動について

観光客を増やすことだけを目的とした世界自然遺産登録運動であってはなりません。本当に白山の豊かな自然を守るための取り組みであるべきです。そういった視点から、合併問題とも関連づけながら、当会としての白山に対する思いや意見をまとめ、ホームページや会報等で広く市民に訴えかけていきたいと思ひます。

⑨広報活動の強化について

NPO法人の活動は、常に広く一般市民に開かれていなければなりません。また、活動内容をオープンにしていく義務があります。そこで、会報やホームページを会員や一般市民の側の立場から、さらに充実させていきたいと思ひます。単に会からの一方的な活動の報告のみならず、双方向のやりとりが重要と考えます。具体的な誌面作りについては、今後運営委員や会員の皆さんの意見もお聞きしながら、詰めていきたいと思ひます。昨秋完成した当会の紹介パンフレットの有効活用を考えていくこととあわせて、広報活動の強化は会員の増加や会活動の充実となって実を結んでいくものと思ひます。皆さんのご意見、ご協力よろしくお願ひいたします。

2004年度 各部会等担当者（案）

山岳部会	鮎川 正	
水系部会	松江 勇昭	
生物部会	村上 秀明	
文化・地域振興部会	垣本 哲夫	
ぶなっ子くらぶ	米山 豊	
白山トンネル部会	栗山 宏人	
林道部会	松江 勇昭	
自然解説指導	林 二良	
チブリ尾根登山道	維持管理作業担当	米山 豊
砂防担当	高橋 外男	

<事務局>

事務局長	加藤 正現	
会報編集長	深田 和人	
ホームページ担当	木村 芳文・竹中 正美	
会計	山田 博子・牧野 郁美	

2004年3月14日

NPO法人 白山の自然を考える会

2004年度 活動予定

予 定 日	担当部会等	内 容
4月18日(日)	高 橋	雑木林 春の詩PART14
5月16日(日)	生物部会	順応山・大倉山自然観察会
5月23日(日)	米 山	チブリ尾根 登山道整備
6月20日(日)	事務局	クリーン活動
6月20日(日)	米 山	チブリ尾根 登山道整備
6月	林道部会	林道白木峠線 現場視察
7月10日(土)	米 山	チブリ尾根 草刈り
7月 中旬	ぶなっ子	ブナ下草刈り
8月 下旬	事務局	第3回白山登山(光ファイバーの現地調査)
8月	米 山	チブリ尾根 巡視
9月 5日(日)	米 山	チブリ尾根 巡視
10月 3日(日)	文化・地域	第11回白山麓見て歩き
10月17日(日)	事務局	秋のクリーン活動
10月17日(日)	米 山	チブリ尾根 巡視
11月 7日(日)	生物部会	蓮如山・鷹落山自然観察会
11月14日(日)	ぶなっ子	ブナ林自然観察会
2005年2月	生物部会	かんじきハイク

※ 上記のほかに、光ファイバー関係の調査登山(3回程度)、笈ヶ岳関連の林道・登山道調査を行います。

※ 「会報」は、2月・5月・8月・11月の上旬に発行致します。原稿の締め切りは、それぞれ発行の3週間程前です。

平成16年度 特定非営利活動事業 活動収支予算書(案)
平成16年1月1日から平成16年12月31日まで

特定非営利活動法人
白山の自然を考える会

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費収入			
個人	440,000		
団体	30,000	470,000	
2 寄付			
会員カンパ	100,000		
団体寄付	100,000	200,000	
3 行事参加費	10,000	10,000	
4 利子	50	50	
当期収入合計(A)		680,050	
前期繰越収支差額		369,176	
収入合計(B)			1,049,226
II 支出の部			
1 事業費			
会報発行・発送	280,000		
発行・発送事務費	10,000		
行事保険料	10,000	300,000	
2 事務費	70,000	70,000	
3 旅費	50,000	50,000	
4 調査費	80,000	80,000	
5 他団体会費	20,000	20,000	
6 家賃	110,000	110,000	
7 予備費	50,000	50,000	
当期支出合計(C)			680,000
当期収支差額(A-C)			50
次期繰越収支差額(B-C)			369,226